

第1 本資料の活用について

1 作成の基本的な考え方

- ・ 中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説（国語編）及び埼玉県中学校教育課程編成要領を踏まえ、学習指導・評価計画を作成する際の参考となるよう、国語科における指導計画の作成から学習評価の考え方、実際までを系統的かつ具体的に取り上げて作成した。
- ・ 教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出すことをねらい、「学校教育目標の実現をねらった教育課程の編成、適切な実施・評価、必要に応じた改善」の一連のサイクル（カリキュラム・マネジメント）を具体的に示した。

2 取り上げた内容

- 第1 本資料の活用について
- 第2 国語科における学習指導と評価
 - 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について
 - 2 国語科における「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善について
 - 3 「言葉による見方・考え方」を働かせる指導のポイントについて
 - 4 観点別学習状況の評価の観点について
 - 5 国語科における「主体的に学習に取り組む態度」の評価について
- 第3 国語科における学習評価の総括例
 - 1 単元における観点ごとの評価の総括例について
 - 2 学期末・学年末（指導要録）における観点ごとの評価の総括について
- 第4 単元の指導と評価の計画及び改善
 - 1 単元計画の作成と評価及び改善の考え方
 - 2 単元の指導計画における評価規準の作成例
 - 3 単元の指導と評価計画例（2事例）
- 第5 本時の学習指導（学習指導案）と評価及び改善
 - 1 本時の学習指導と評価及び改善の考え方
 - 2 学習指導案の事例（4事例）

指導計画作成の留意事項	
	編成要領（編P35）で示された「指導計画作成に当たっての留意すべき事項」との関連についても本資料で示していく。
(1)	「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた生徒への指導」の視点
(2)	「主体的・対話的で深い学び」の視点
(3)	「教科等横断的」な視点
(4)	「社会に開かれた教育課程」の視点
(5)	「道徳教育の充実」の視点
(6)	弾力的な指導に関する事項
(7)	学校図書館などの活用に関する事項
(8)	情報機器の活用
(9)	〔知識及び技能〕に関する配慮事項
(10)	「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、書写に関する配慮事項
(11)	「読書」及び「C読むこと」に関する配慮事項
(12)	教材についての配慮事項

3 本資料の活用にあたって配慮すること

3-1 国語科の特質を踏まえること

国語科においては、言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。生徒が言葉に着目し、言葉への自覚を高められるように指導と評価を工夫する。

3-2 指導計画に即した学習評価を行うこと

実態に即して作成した年間指導計画等を基に、各単元において育成する資質・能力を明確にするとともに、単元の評価規準に基づいて場面を精選し生徒の具体的な姿を見取ることで評価する。

3-3 学校、家庭、地域の実態に合った指導計画を立てること

学校、家庭、地域の強みを生かした指導計画とするために、国語科の学習内容が他教科等の学習に結び付くように、他教科等の内容の系統性や関連性を考慮しながら計画を立てる。

4 学力・学習状況調査等の活用

全国学力・学習状況調査については、その調査問題の中で具体的に示された「生徒に身に付けさせたい資質・能力」を捉えて、授業改善に生かすようにする。本資料では、本県の課題の一つである「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつこと」と関連する事例を掲載した。（P34参照）

埼玉県学力・学習状況調査については、調査結果を活用し、一人一人の学力の伸びや学習方略、非認知能力の状況等を把握しながら指導の工夫改善を図るようにする。

第2 国語科における学習指導と評価

1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について

国語科で育成を目指す資質・能力を「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」と規定するとともに、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理している。(解P6参照)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
教科の目標	社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。	言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

日常生活から社会生活へと活動の場を広げる中学生が、国語で理解したり表現したりする様々な場面の中で生きて働く「知識及び技能」を身に付けるために、思考・判断し表現することを通じて育成を図ることが求められている。このことから「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」は、相互に関連し合いながら育成される必要がある。

言語感覚については、小学校では養うとしているものを中学校では豊かにするとし、より高いものが求められる。また我が国の歴史の中で創造され継承されてきた文化としての言語、文化的な言語生活、多様な言語芸術や芸能などについて我が国の言語文化に関わることも求められている。

2 国語科における「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善について

国語科の特質に応じて効果的な学習が展開できるよう、以下の点に配慮して授業改善を行う。

(解P131参照)

- ・ 単元など内容や時間のまとまりの中で、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場면을適切に設定すること
- ・ 対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場면을適切に設定すること
- ・ 学びの深まりをつくり出すために、生徒が考える場面と教師が教える場면을効果的に設定すること
- ・ 生徒や学校の実態に応じ、多様な学習活動を組み合わせて授業を組み立てていくこと
- ・ 単元のまとまりを見通した学習を行うに当たり基礎となる知識及び技能の習得に課題が見られる場合には、それを身に付けるために、生徒の主体性を引き出すなどの工夫を重ね、確実な習得を図ること

各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「見方・考え方」を習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが重要である。

3 「言葉による見方・考え方」を働かせる指導のポイントについて

「言葉による見方・考え方」を働かせることについては、次のように示されている。

言葉による見方・考え方を働かせるとは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。(解P132参照)

「言葉による見方・考え方」を働かせる指導のポイントは、育成したい資質・能力に適した言語活動を構想することである。例えば、同じ意味をもつ言葉でも相手や状況に応じて使い分けること、ある文章を一読した際に捉えた言葉の意味を文脈に即して捉え直すことなど、自らが理解し表現する言葉に、より自覚的になる授業が想定される。

「資質・能力」を育成する過程で「見方・考え方」が働き、「資質・能力」が育成されることで「見方・考え方」も豊かで確かなものとなると考えられる。

4 観点別学習状況の評価の観点について

学習指導要領の目標及び内容が、資質・能力の三つの柱に基づいて整理されたことを踏まえ、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点で評価を行う。

評価規準の作成に当たっては、以下の「評価の観点及びその趣旨について」、「学年別の評価の観点の趣旨について」を参考にして「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。なお、「学びに向かう力、人間性等」における「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、観点別評価を通じて見取り、「感性、思いやりなど」については個人内評価を通じて見取る。

4-1 評価の観点及びその趣旨について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、言語感覚を豊かにし、言葉を適切に使おうとしている。

4-2 学年別の評価の観点の趣旨について ※第1学年の例

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにしていく。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを確かなものにしたりしながら、言葉がもつ価値に気付こうとしているとともに、進んで読書をし、言葉を適切に使おうとしている。

4-3 「内容のまとまりごとの評価規準」（「単元の評価規準」）の作成の手順について

学習指導要領の「2 内容」には「育成を目指す資質・能力」（指導事項）が示されている。これは、そのまま単元（や題材）の目標となるものである。「育成を目指す資質・能力」（指導事項）の文末を「～すること」から「～している」（生徒が資質・能力を身に付けた状態）と変更することで、「内容のまとまりごとの評価規準」になる。なお、国語科においては、「内容のまとまり」が、単元や題材などの一定程度のまとまりのこととなるため、「内容のまとまりごとの評価規準」を「単元の評価規準」とすることができる。

国語科における「内容のまとまりごとの評価規準」は、以下の手順で作成する。

4-3-1 国語科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係

「内容のまとまり」

〔知識及び技能〕 (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 (2)情報の扱い方に関する事項 (3)我が国の言語文化に関する事項	〔思考力、判断力、表現力等〕 A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと
--	---

「評価の観点」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

4-3-2 「内容のまとまり（単元や題材）ごとの評価規準」を作成する際の観点ごとのポイント

・ 「知識・技能」のポイント

基本的に、当該単元（や題材）で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項について、その文末を「～している。」として、「知識・技能」の評価規準を作成する。育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもある。（P38参照）

・ 「思考・判断・表現」のポイント

基本的に、当該単元（や題材）で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項について、その文末を「～している。」として、「思考・判断・表現」の評価規準を作成する。育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもある。（P32参照）

評価規準の冒頭には当該単元（や題材）で指導する一領域を「（領域名）において、」と明記する。

・ 「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

「主体的に学習に取り組む態度」は、次の二つの側面から評価する。

- ① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面
- ② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

国語科の「学年別の評価の観点の趣旨」（P20 4-2）において、主として「粘り強い取組を行おうとする側面」に関しては「言葉を通じて積極的に人と関わったり」が対応する。また、「自らの学習を調整しようとする側面」に関しては「思いや考えを確かなものにしたりしながら」が対応する。

「学びに向かう力、人間性等」は各学年に目標が示されているが、これに係る指導事項は示されていない。そこで、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、教師が当該単元で育成を目指す資質・能力（指導事項）と言語活動に応じて作成する必要がある。

上記の①②の側面を適切に評価するためには、次の③④を考えて授業を構想することが大切である。

- ③他の2観点において重要とする内容（特に、粘り強さを発揮して欲しい内容）
- ④当該単元の言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

※「他の2観点」とは、〔知識及び技能〕〔思考力、判断力、表現力等〕を指す。

ここまでを踏まえ、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、①から④の内容を全て含め、単元（や題材）の目標や学習内容、言語活動等に応じて、その組合せを工夫することが考えられる。文末は「～しようとしている。」として作成する。

「評価規準の文例」

- ①粘り強さ ※ < >内は、考えられる表現の例
 <積極的に、進んで、粘り強く 等>
- ②自らの学習の調整
 <学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして 等>
- ③他の2観点において重点とする内容
 （特に粘り強さを発揮してほしい内容）
- ④当該単元（や題材）の具体的な言語活動
 （自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

単元の目標：目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、
集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。
 本単元における言語活動：新聞にまとめて地域の方に報告する。

※①③②④の順で示しているが、固定的なものではない。

単元の評価規準：(①) 粘り強く (③) 集めた材料を整理し、
 (②) 学習の見通しをもって (④) 報告しようとしている。

※ 内容のまとめりごと（単元）の評価規準を手順に沿って作成する例は、「2 単元の指導計画における評価規準の作成例」のStep3（P25）参照。

※ 参考P75～P105には中学校国語科における「内容のまとめりごとの評価規準（例）」が巻末資料として、言語活動例ごとに例示されている。

4-4 個人内評価の扱いについて

国語科に関わりの深い「感性や思いやりなど」の観点別学習状況の評価や評定になじまない部分については、「個人内評価」とし、生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況について評価する。また、個人内評価の対象となるものについては、生徒が学習したことの意義や価値を実感できるよう、日々の教育活動等の中で生徒に伝えることが重要である。

5 国語科における「主体的に学習に取り組む態度」の評価について ※第1章総則第2（P4）参照

「主体的に学習に取り組む態度」の評価に当たっては、単なる継続的な行動や積極的な発言（毎時間のノート記録や挙手・発言）を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するというのではない。国語科の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨（P20 4-1参照）に照らして、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要である。

単元計画（授業）の中に「自らの学習の調整」を行う場面を設定する必要がある。例えば、学習の見通しをもったり、既習事項を生かしたり、学習課題に沿って試行錯誤したりする場面等がそれにあたる。その中で生徒が資質・能力（指導事項）を身に付けようとする姿を評価する。

評価に際しては、生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫をしたり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を、単元（題材）などの内容のまとめりの中で設けたりしながら評価する。

具体的な評価の材料として、下記のもの挙げられる。

<具体的な評価材料（例）>

- ノートやレポート、ワークシート（※）等の記述内容
- 教師による行動観察
- 授業中の発言の内容
- 授業や単元の振り返り等の記述内容
- 自己評価や相互評価の記述内容

※ワークシートについては、単元の目標にある指導事項を身に付けるために、生徒が粘り強い取組をしていることが見て取れるように工夫する必要がある。（P33参照）

振り返り等の記述内容としては、次のような項目が考えられる。

【振り返りの項目（例）】（参考P71）

- ・ 本時（や本単元）の学習で意識したこと。
- ・ 本時（や本単元）で身に付いた力やできるようになったこと。
- ・ 本時（や本単元）で課題を解決するために試行錯誤したこと。
- ・ 前時までに学習したことで、本時の学習に役立ったこと。
- ・ 本時（や本単元）で工夫しようとしたが、十分ではなかったこと。
- ・ 本時（や本単元）で学習したことで、今後の学習や生活の中に生かせそうなこと。

「主体的に学習に取り組む態度」は、特に粘り強さを発揮してほしい内容と、自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動を考えて授業を構想した上で評価規準を作成するが、言語活動を評価するのではなく、言語活動を通して指導事項を身に付けようとしているかを評価することに留意する。

第3 国語科における学習評価の総括例

1 単元における観点ごとの評価の総括例について

「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の中で記録に残すものについては、単元の評価規準に基づき、「指導と評価の計画」に示した時間や学習活動のまとめごとに、その実現状況を見ていく。その上で、時間や学習活動のまとめごとに行った評価結果を総括する。

毎時間の生徒の学習状況を把握する際に、観点ごとの評価規準に照らし「おおむね満足できる状況」(B)と判断する際の姿を具体的に定め(P30第5-1)、下記のような【評価メモ】を作成し、評価結果を累積することが有効である。【評価メモ】には、「観点」、「Bと判断する状況の例」、「評価の材料」、「Aと判断するポイントの例」、「評価」、「単元における評価」などを記載している。

【評価メモの例】(参考P48)

観点	[知識・技能]		[思考・判断・表現]		[主体的に学習に取り組む態度]		
Bと判断する状況の例	①スピーチを聞いて新たに知った言葉を「語彙手帳」に書き留め、その言葉を適切な用例とともに記入しているか	単元における評価	①紹介する言葉を決め、目的や場面、相手などを考えて、その言葉に関するエピソードなどの話す材料を整理しながらスピーチの内容を検討しているか	②実際のスピーチにおいて、相手の反応を踏まえて問いかけたり、発言を繰り返したり、説明の仕方を変えたりしているか	単元における評価	①練習を通して相手に伝わるような表現の工夫を考え、発表会に間に合うように選んだ言葉を紹介しようとしているか	単元における評価
評価の材料	・語彙手帳		・ノート	・発表 ・ノート		・観察 ・ノート	
Aと判断するポイントの例	・速やかさ ・丁寧さ ・集団への寄与 ・興味の広がり ・応用・活用の意識 など						
生徒X	B	B	A	A	A	A	A
生徒Y	A	A	A	B	B	B	B

単元において、このような「AB」の組合せになった場合、AとBのどちらの評価にするか各学校で基準を決めておく。その際、本単元で何を重点的に指導するか、年間指導計画に明示することも考えられる。上記の【思考・判断・表現】では、②を重点項目に設定したため、「単元における評価」は、「B」となる。

「おおむね満足できる状況」(B)を満たした上で、「Aと判断するポイントの例」(上記の表中)のいずれかを満たしていれば「十分満足できる」状況(A)とする。

「努力を要する状況」(C)の状況の生徒に対しては、「おおむね満足できる状況」(B)を実現するために行った指導をメモ等で残すなど、指導の継続性が保たれることにより、生徒一人一人の資質・能力の向上につなげていく。

また、表中の「単元における評価」は、単元の学習を終えた時点で、生徒がどのような状況にあるのかを記録している。表中の「思考・判断・表現」のように、二つの場面において評価を行う場合は、両方の観点の実現状況を合わせて総括する。この二つの評価が異なる場合については、学校であらかじめ基準を決めておくことが考えられる。一方で、年間指導計画において重点化が図られた上で、本単元で重点的に指導し評価する内容を踏まえた場合は、重点目標における学習状況を重視することも考えられる。国語科の指導内容が、螺旋的・反復的に繰り返しながら能力の定着を図ることを基本としていることに留意し、年間を見通して当該単元の目標や単元の評価規準を設定することが重要になる。

2 学期末・学年末(指導要録)における観点ごとの評価の総括について

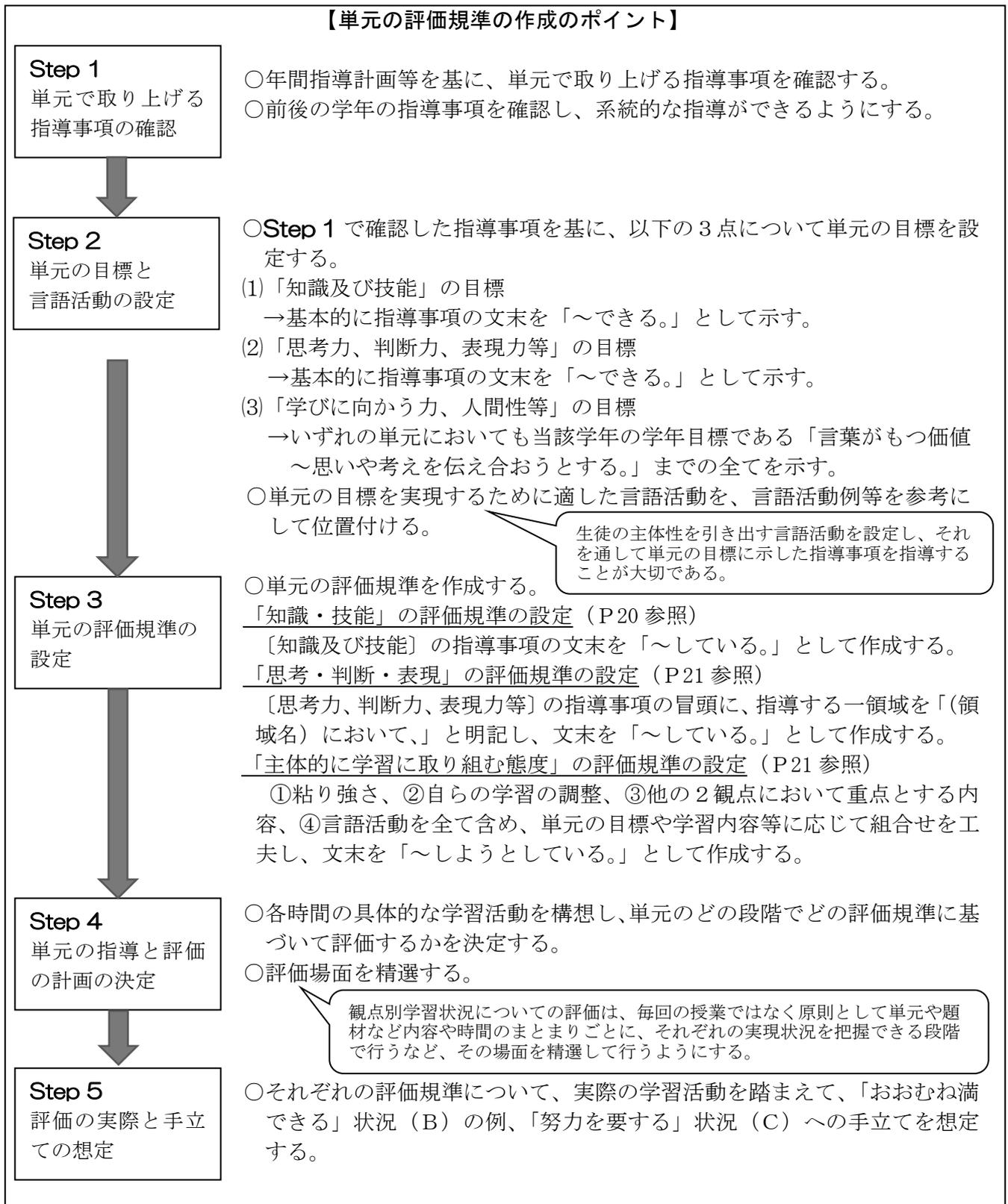
「第1章総則 第2の6 学習評価の総括例について」(P7)を参照する。

第4 単元の指導と評価の計画及び改善

1 単元計画の作成と評価及び改善の考え方

◎単元の評価規準の作成のポイント

中学校国語科においては、次のような流れで授業を構想し、評価規準を作成する。



2 単元の指導計画における評価規準の作成例

Step 1

○単元で取り上げる指導事項を、年間指導計画等を基に確認する。

1 単元名・教材名 「走れメロス」から文豪・太宰治の思いに迫る
「走れメロス」太宰 治

2 生徒の実態と本単元の意図 (略)

「単元名」は、どのような資質・能力を育成するために、どのような言語活動を行うのが生徒に分かるように工夫する。

3 単元の目標

これまでどんな学習を行ってきたかという学習の系統性、単元の目標に示した指導事項について生徒の実態等を記述する。(記入例 P29 参照)

Step 2

○指導事項等を基に、三つの柱に基づく単元の目標を設定する。
○単元の目標を実現するために適した言語活動を、学習内容を踏まえ言語活動例等を参考にして位置付ける。

(1) 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 (知識及び技能) (1)エ

(2) 登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈することができる。 (思考力、判断力、表現力等) C(1)イ

(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

4 本単元における言語活動
作者が作品に込めた思いについて根拠を基に説明する。(関連：言語活動例 C(2)イ)

5 単元の評価規準

各指導事項の文末に「領域名」を入れる。 学習指導要領解説に記載されている「言語活動例」以外の言語活動も考えられる。

Step 3

○「知識・技能」「思考・判断・表現」については、指導事項を用いて評価規準を作成する。
○単元の評価規準を設定する際、該当する指導事項を用いて示すことで、学習指導要領との関連が明確になる。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ	①「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈している。(C(1)イ)	①粘り強く登場人物の言動の意味を考え、学習課題に沿って根拠を基に説明しようとしている。
指導事項の文末を変えて、評価規準を作成する。	文末を「～している。」にする。	言語活動自体を評価するのではなく、指導事項を身に付けようとしているかを評価する。

Step 4

○各時間の具体的な学習活動を構想し、単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを決定する。
○評価場面を精選する。

6 指導と評価の計画 (全6時間)

	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	○学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。	○比較する読み方	○「人質」に加筆・変更して「走れメロス」を書いたことに気付かせたい。
2	○本文を読んだ後に「人質」を提示し、感想を書く。	○学習内容は、何を学習させるか(指導事項に係る事項)を記述する。	○本時は、C(1)オに基づいて指導を行うが、単元の目標としていないことから評価には含まない。
3	○「人質」との加筆点、変更点等を場面ごとに書き出す。	○抽象的な概念を表す言葉	○ノートに表を作り、場面ごとにどんな加筆か変更かを付箋に書き出し、ノートの表に貼るよう指導する。
4	○加筆、変更した部分から筆者の思いを読み取る。	○語彙	○書き出した部分から、登場人物の言動を取り出して、そこから読み取れる作者の意図や思いを考えさせるようにする。
	「学習活動」は、生徒が行う活動を記述する。	「学習活動」と「学習内容」が混同しないようにする。「学習内容」は、体言止めの記述とする。	【知識・技能①】 ノート ・ここでは、抽象的な概念を表す言葉を理解し文の中に使っているかを確認する。
		「単元の評価規準」について評価する時間には、評価方法と「おおむね満足できる」状況(B)の例を具体的に示す。	【主体的に学習に取り組む態度①】 観察・ノート ・ここでは、複数の叙述を根拠にして自分の考えをまとめ、自らの学習を調整しながら発表しようとしているかを確認する。

Step 5

○それぞれの評価規準について、実際の学習活動を踏まえて、「おおむね満足できる」状況(B)の例、「努力を要する」状況(C)への手立てを想定する。
○本時については、さらに詳しく示す。(P30 参照)

6 ○太宰の作品に込めた思いを発表する。
○単元全体のまとめを行う。

○複数の叙述による根拠の提示の仕方
○内容の解釈の仕方

○「Bと判断する状況」について、生徒の学習の状況(姿)を、「ここでは、～しているか(～しようとしているか)を確認する。」という形で具体的に示す。
→何をどのように評価するかが具体的にイメージでき、育成したい資質・能力に応じた指導のポイントも明確になる。

3 単元の指導と評価計画例

＜事例1＞「話すこと・聞くこと」
 「進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること」をねらった事例
 第3学年「合意形成に向けて話し合おう」指導要領との関わり：〔思考力、判断力、表現力等〕 A(1)オ

1 単元の指導計画の作成に当たっての工夫、配慮事項

本単元では、目的に沿って話し合い、進行の仕方を工夫したり、互いの発言を生かしたりしながら、合意形成に向けて話し合う学習を設定した。まず、卒業文集をどのようなものにしたか自分の意見を整理させてから、周りの意見を取り入れ、共通点や相違点を見い出させた。次に話し合いの展開を具体的に考えることで、効果的な話し合いの進め方について理解し、よりよい話し合いの仕方に気付けるよう工夫した。そして学習者用PCや思考ツールを用いることによって、テーマに対する自分の考えと他者の考えを比較・統合しやすくして話し合いが深まるようにした。話し合いの様子を学習者用PCで録画することによって、生徒が自分の話し合いについて振り返れるように工夫した。話し合いのテーマは、卒業文集の内容に合わせて後輩に伝えたいこと、地域へ提案したいことなどを設定して生徒の主体性を促すようにした。

2 学習評価に当たっての工夫、配慮事項

評価場面は「話し合い」の活動場面とし、本時の学習を通して、自分の意見を伝え、周りの意見と比較・統合等しながら合意形成に向けて話し合いができたかどうかを評価した。タブレット等の学習者用PCを利用して話し合いの様子を録画し、話し合いの進め方やまとめ方を客観的に振り返ることで、自分の学びを実感し、生徒自身が自らの変容を捉え、教師もその変容を見取ることができるように工夫した。

3 指導と評価計画の実際

1	単元名・教材名 卒業文集の企画についてグループ会議を開こう 「合意形成に向けて話し合おう」	【第3学年】11月実施	
2	生徒の実態と本単元の意図（略）		
3	単元の目標		
	(1) 相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。	〈知識及び技能〉(1)エ	
	(2) 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。	〈思考力、判断力、表現力等〉A(1)オ	
	(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。	〈学びに向かう力、人間性等〉	
4	本単元における言語活動 互いの考えを生かしながら合意形成に向けて話し合う。（関連：言語活動例A(2)イ）		
5	単元の評価規準		
	知識・技能	思考・判断・表現	
	主体的に学習に取り組む態度		
	①相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。 (1)エ	①「話すこと・聞くこと」において、進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。 (A(1)オ)	①粘り強く合意形成へ向けて考えを広げたり深めたりして、学習課題に沿って比較・整理しながら話し合おうとしている。

6 指導と評価の計画（全5時間扱い）

時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ○言語活動について知り、卒業文集の企画について考える。 ○話し合いに向けて、テーマに対する自分の考えをもち、伝える順序を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目的に沿った話し合いのポイント <p>考えを記入する用紙に色分けした付箋を用いるなどして、伝える順序を熟考できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項について確認する。 ○テーマに沿って、自分の考えがもてるようにして、他者と比較できるように伝え方の観点も明確にする。 <p>【知識・技能①】 ワークシート ・ここでは、話し合いに向けて自分の考えをもち、既習事項を基に、場面を想定した建設的な発言の仕方を積極的に想起しているかを確認する。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ○グループでテーマに沿って話し合う。 ○話し合ったことをグループで確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の考えに応じた自分の考えの伝え方 ○話し合いの仕方 <p>共通点と相違点で色分けしたり、矢印等でつながりを示したりして、話し合いの過程がわかるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○思考ツール(マッピング等)を活用させ、それぞれの意見の共通点・相違点等を整理できるようにする。 ○司会や計時等の役割は特に分担させず、グループ内で意識させ、話し合いの様子を学習者用PC等で録画する。 <p>【主体的に学習に取り組む態度①】 観察・ワークシート ・ここでは、自分の意見とグループの意見を比較・整理し、合意形成に向けた発言をしようとしているかを確認する。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ○録画した話し合いの様子をグループ同士で見合い、互いにアドバイスする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○合意形成に向けた話し合いの仕方 <p>他グループと比較させながら、同じテーマでも思考の広がりやまとめ方が異なる理由を考えさせ、そこからよりよい話し合いの方法について考えさせていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いの目的やゴールを意識した話し合いになっているかどうか、客観的な意見を出させる。 ○録画映像だけの判断にとどまらず、話し合いの過程を他グループに説明することで、課題を明確にさせていく。 <p>【思考・判断・表現①】 発表・ワークシート ・ここでは、他グループの発表や他者からの意見を目的や展開に結び付けるなど、合意形成に向けた話し合い方が身に付いているかを確認する。</p>
4 ・ 5	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合い方に注意しながら、班で意見をまとめる。 ○全体で各班の意見を伝え合う。 <p>○本單元におけるこれまでの「振り返り」をもとに、自分たちの話し合いの仕方について振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○合意形成に向けた話し合いの仕方 <p>生徒が主体となった発表の場にしていくことが望ましい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習を踏まえた発言や進行ができるよう促す。 <p>【主体的に学習に取り組む態度①】 観察・ワークシート ・ここでは、1回目と比較して自身の思考に広がりをもたせ、グループの話し合いを積極的に粘り強くまとめようとしているかを確認する。</p> <p>P18 指導計画作成の留意事項(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本單元での学習を他教科の学習にも生かせるように促す。

4 評価に基づく改善のポイント

学習者用PCを用いて録画等の記録を残すことにより、生徒が客観的に自身を見つめ、目標と照らし合わせて学習過程を振り返ることにつながる。特に「話すこと」に関しては、話しながら自身を振り返るといったことが難しいため、グループでペアを組んで、評価者を設定したり、話し合いの場面を記録できるような学習環境を整えたりすることが効果的である。記録があれば、生徒の学習活動等を的確に見取り、個に応じた指導・支援にもつながる。また、生徒の思考の広がりや学習の効率化を図るために、学習者用PC上で意見や感想等を共有する展開も考えられる。

<事例2>「書くこと」

「伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫すること」をねらった事例

第2学年「表現を工夫して書こう」指導要領との関わり〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)イ・エ

1 単元の指導計画の作成に当たっての工夫、配慮事項

本単元に入る前に、「字のない葉書（向田邦子）」において、心を込めて手紙を書く大切さについて学んだ。また、道徳の内容「感謝」と関連させて、本単元のゴールを「お世話になった大人に気持ちを入れて手紙を書く」と設定した。そして「お世話になったかつての恩師に」「感謝の気持ちと近況の報告を届けるために」と具体的に相手と目的を意識して、生徒が主体的に学べるように工夫した。

また、総合的な学習の時間に取り組む「職場体験」と関連させ、お礼状を作成し、国語で習得した「書くこと」等の資質・能力を活用して、実生活における様々な言語活動へと発展させていけるよう配慮した。

2 学習評価に当たっての工夫、配慮事項

本時の評価において留意したいことは、推敲における交流活動そのものを評価するのではないことである。教師による指導や友達からの助言を受けて、読み手を意識して、分かりやすく伝えるために新たな表現や構成を工夫する場面で、発揮される粘り強さや学習の調整を評価した。

3 指導と評価計画の実際

1 単元名・教材名 恩師に宛てて中学校での近況報告を綴ろう

「表現を工夫して書こう」

【第2学年】10月実施

2 生徒の実態と本単元の意図（略）

3 単元の目標

- (1) 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 〈知識及び技能〉(1)エ
- (2) 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉B(1)イ
- (3) 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉B(1)エ
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

4 本単元における言語活動

相手（読み手）に感謝の気持ちが伝わるように手紙を書く。

（関連：言語活動例B(2)イ）

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 (1)エ	①「書くこと」において、伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。 (B(1)イ) ②「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。 (B(1)エ)	①積極的に読み手の立場に立って表現の効果などを確かめ、学習課題に沿って手紙を書こうとしている。

6 指導と評価の計画（全6時間扱い）

	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ○根拠を明確にして、自分の考えを伝える文章を書く活動など、1年生の学習を振り返り、既習事項を確認する。 ○メールと手書きの手紙を比較し、相手と目的にふさわしい手紙の形式について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な手紙の形式 <p>P18 指導計画作成の留意事項(5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○メールと手書きの手紙例を用意し、比較させ、利点と問題点を明確にさせる。 <p>本時は、[知識及び技能] 1年(3)エ(7)に基づいて指導を行うが、単元の目標としていないことから評価には含まない。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的なエピソードや学校生活における印象的な出来事を付箋にメモする。 <p>家庭学習の取組として、家族が書いたり、もらったりした手紙を見せてもらい、表現の参考とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○題材の選定方法 ○情報の整理の仕方 ○全体の構成と割り付け 	<p>【思考・判断・表現①】 <u>ワークシート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、情報を伝える優先順位を考えて並び替えながら構成し、展開を工夫しているかを確認する。
3・4・5	<ul style="list-style-type: none"> ○構成メモを発表し合い、助言し合う。 ○表現や言葉遣いに注意しながら下書きを書く。 <p>P18 指導計画作成の留意事項(9)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○下書きを読み合い、互いに助言し合う。 <p>感謝の気持ちが伝わる表現について交流の中で情報の共有・交換させて、学びの調整をさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○全体の構成と割り付けの仕方 ○詳述や略述の工夫 ○修辭法の活用方法 ○表現の工夫 	<p>【知識・技能①】 <u>下書き原稿</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、感情など抽象的な概念を表す語等を適切に使い分け叙述しているかを確認する。 <p>【主体的に学習に取り組む態度①】 <u>下書き原稿・観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、読み手に自分の気持ちが伝わる表現で書き、学習課題に沿って手紙を書くようとしているかを確認する。
6	<ul style="list-style-type: none"> ○気持ちが伝わる文章となるように、前時の助言から推敲を重ね、清書して仕上げる。 <p>P18 指導計画作成の留意事項(10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○封筒の表と裏書を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○表現の効果を考えた推敲の観点 	<p>【思考・判断・表現②】 <u>清書した手紙</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、読み手の立場に立って、表現の効果などを考え、文章を整えているかを確認する。 ・書写の教科書を参考にする。
事後	<ul style="list-style-type: none"> ○職場体験や修学旅行でお世話になった方にお礼状を書く。 	<p>P18 指導計画作成の留意事項(4)</p>	

4 評価に基づく改善のポイント

生徒が書いた文章の「調整」「修正」等の学習過程が見取れるワークシートを作成し、単元の目標との関連と振り返りを意識した展開のもと指導をした。特に下書きの記述から生徒の学習内容の理解と定着、取組の姿勢を的確に観察し、個に応じた指導と支援につながるよう努めた。

第5 本時の学習指導（学習指導案）と評価及び改善

1 本時の学習指導と評価及び改善の考え方

本時の学習指導に当たっては、本単元で育成を目指す資質・能力が確実に生徒一人一人に身に付くよう、単元計画と連動性をもった一単位時間を構想し、評価規準を作成する。

※「単元の評価規準の作成のポイント」の「Step 1～4」（P25 参照）について留意した上で、本時「Step 5」を設定する。

本時の学習指導（4 / 6 時）

本時の目標は、「単元の目標」を設定する。

- (1) 目標 登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈することができる。
 〈思考力、判断力、表現力等〉 C(1)イ

評価規準は、「単元の評価規準」を設定する。

- (2) 評価規準 「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈している。 【思考・判断・表現】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 本時の課題をつかむ。 シラー「人質」に作者が加筆、変更した部分に注目して読もう。		文末を「～だろうか」と問いかける形の課題も考えられる。	3
2 ノートに貼った付箋から、作者の思いを考える。（個人） 「予想される～」とは、評価A～Cのそれぞれの生徒の反応を意識して書く。	○登場人物の言動 ○加筆・変更部分を比較した読み方 〈予想される生徒の反応〉最後にメロスとセリヌンティウスが、暴君の前で殴り合い、抱きしめ合った場面の言動が加わったことから作者が友情の美しさを強調したいとの思いを感じた。	Step 5: 評価の実際と手立て 評価規準 略記でもよい。 (例)【思・判・表】 【思考・判断・表現①】 <u>ノート</u> ・ここでは、加筆部分や変更部分を登場人物の言動の視点で捉え、作者の思いをまとめているかを確認する。 重点を置く活動に十分な時間を取り、確実に見取るようにする。	15
3 3人グループで交流する。	○登場人物の言動と物語の展開の関わり方	<「努力を要する」状況(C)への手立て>	20
4 交流を基にして作者の思いを再検討する。（個人）		・より多く加筆された部分を一緒に確認し、作者の思いを考えるように促す。	5
5 本時のまとめをする 加筆、変更した部分にある登場人物の会話や行動に注目して読むと、作者がこの作品に込めた思いを捉えることができる。 「まとめ」と「振り返り」を分け、意図的・計画的に設定する。「振り返り」は、毎時間行わなくとも、まとめて行う場合も考えられる。		課題に対するまとめを生徒の言葉を拾いながらまとめる。まとめにおいて、本時にどんな学習内容を学んだのか、生徒に意識させることが必要である。そしてその学習した内容について、自分の言葉で振り返りを書かせることで身に付けた内容をより自覚させることが大切である。	3
6 学習の振り返りをする。 〈期待される生徒の振り返り〉交流した際に、作品のクライマックスを中心にまとめた○○さんの考えを踏まえて読み直してみると、作品全体を貫く作者の思いをより強く感じた。自分の好きな本にはどんな思いがあるのか考えてみたい。		・「期待される～」とは、指導事項が身に付いた生徒（評価B）の姿を意識して書く。 ・本時に学習したことを通して、新たに分かったことや考えたこと、生活に生かせることや、さらに調べたくなったこと等を書かせる。（P22 参照）	4

2 学習指導案の事例

＜事例1＞「読むこと」(文学的文章)

「場面と場面、場面と描写などを結び付け、内容を解釈すること」及び「場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること」をねらった事例

第1学年「少年の日の思い出」指導要領とのかかわり：〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)イ・ウ

1 学習指導案の作成に当たった工夫、配慮事項

教科書教材「少年の日の思い出」の印象に残った場面を演じるという場を設定し、どのように表現するかを工夫させることで、「場面と場面、場面と描写を結び付け、内容を解釈する」力を発揮できるようにした。また表現する場面を導くナレーションを考えさせることで、「場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉える」力を育成することを目指した。

さらに解釈が深まってくる第4時に岡田朝雄訳を配布し、翻訳作品ならではの訳の違いを味わわせることで、読書が「自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解」させることをねらった。

2 評価に当たった工夫、配慮事項

留意したいのは、言語活動を評価するのではなく、指導事項に基づいて指導した内容について評価するという点である。本単元では、表現の仕方を工夫することとナレーションを考えることを通して、C(1)ウとイを指導することをねらっている。よってそれぞれノートの記述とワークシートの記述で評価をすることとした。

「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、C(1)ウを身に付けさせることに重点を置いているので、表現の仕方を工夫するために、自分に取り組む場面だけでなく関連する他の場面の描写を探し、新たな意味付けを行おうとする過程で、特に粘り強さを発揮させたいと考えた。また文章中の描写について学習課題に沿って自分の考えたことを語り合う活動の中で、自らの学習の進め方を調整できるようにしたいと考えた。そこで評価規準を下記のとおり設定し、「表現する場面が、他の場面や描写とどのように結びつくのかを語り合ったり、気付いた内容をワークシートに加筆したりしようとしている」姿を「おおむね満足できる」状況(B)と捉え評価した。評価の具体は後述する。

3 学習指導・評価の実際

1 単元名・教材名 「『少年の日の思い出』を表現して味わおう」

「少年の日の思い出」ヘルマン・ヘッセ 高橋健二訳 【第1学年】12月実施

2 生徒の実態と本単元の意図(仮)

4月に実施した「花曇りの向こう(瀬尾まい子)」を扱った単元では主人公の心情を捉えることを中心に行ったが、特定の場面のみ的心情把握に留まってしまうたり、単一の描写のみを根拠として心情をつかんでしまったりする生徒が見受けられた。特に描写に基づくということは分かっているものの、離れた描写同士を結び付けることができずに解釈してしまうことから、読みの深まりが十分でないという課題が見られた。そこで、本単元では「場面と場面、場面と描写を結び付け、内容を解釈する」力を重点的に育成したいと考えた。また読書については、…(略)

3 単元の目標

- (1) 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。 (知識及び技能) (3)オ
- (2) 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。 (思考力、判断力、表現力等) C(1)イ
- (3) 場面と場面、場面と描写などを結び付け、内容を解釈することができる。 (思考力、判断力、表現力等) C(1)ウ
- (4) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

指導事項の一部「目的に応じて～」を省いた目標

4 本単元における言語活動

小説を読み、内容を解釈して表現の仕方を工夫したり、考えたことを伝え合ったりする。

(関連：言語活動例C(2)イ)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 読書が、知識や情報を得	① 「読むこと」において、場面の展	① 積極的に場面と場面、場

<p>たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。</p> <p>(3)オ</p>	<p>開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。</p> <p>(C(1)イ)</p> <p>② 「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付け、内容を解釈している。</p> <p>(C(1)ウ)</p>	<p>面と描写などを結び付け、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。</p>
<p>単元の目標に合わせて指導事項の一部「目的に応じて～」を省いた評価規準</p>		

6 指導と評価の計画 (全7時間扱い)

時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	○学習のねらいや進め方をつかむ。	○表現の仕方	○三つの場面を選んでおく。 【思考・判断・表現①】 ワークシート ・ここでは、演じる場面までの話の展開や「僕」とエーミールなど登場人物同士の関係を正しく捉えているかを確認する。
2	○文章を通読し、話の展開や内容の大体をつかみ、感想をもつ。 ○感想に基づいて演じる場面を決め、ナレーションを書く(100字～150字)。	身に付ける資質・能力を確認する。 ○場面の展開・登場人物の相互関係・心情の変化	
3	○客が「もう、結構。」という場面を用いて、全体で表現の工夫とその理由を考える。	○場面と場面・場面と描写の結び付け方	○表現の仕方や場面の結び付け方を全体で確認することで、個人で試行錯誤できるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度①】 ワークシート・観察 ・ここでは、表現する場面が他の場面や描写とどのように結びつくのかを語り合ったり、気付いた内容をワークシートに加筆したりしようとしているかを確認する。
4	○個人で自分が選んだ場面の表現の仕方を考える。 ○グループを作り表現の工夫や結び付けた描写などを交流する。 ○別のグループと交流する。	場面A：クジャクヤママコを盗み出す「僕」 場面B：「そうか(略)」と言うエーミール 場面C：ちょうを押しつぶしてしまう「僕」 ○本文の描写を根拠にした読み方	
5	○自分の選んだ場面に対応する岡田朝雄訳を読み、感想をもつ。 P18 指導計画作成の留意事項(1) ○グループごとに練習をする。	○翻訳小説の味わい 翻訳小説には訳の違いを楽しむ読み方もあるというような「興味の広がり」が見られる生徒はAとした。	【知識・技能①】 ノート ・ここでは、別訳を読んで自分の考えを広げているかを確認する。
6	○発表会を開き、表現の仕方を検討し合う。	○場面と場面・描写の結び付け方	○各グループから2名ずつ前に出て表現する。同じ場面の発表が終わったら、演じた理由などについて本文を根拠に議論する。 【思考・判断・表現②】 ノート ・ここでは、他の場面や描写と結び付けることで選んだ場面に新たな意味付けを行っているかを確認する。
7	○自分が選んだ場面と特に関連があった場面や描写を考察し、選んだ場面にどのような意味をもたせることができたかについて考えをまとめる。 ○学習の振り返りをする。	○本文の描写を根拠にした読み方 演技そのものは評価しない。発表後の議論に重きをおき、本文を根拠に互いの解釈を共有する。	

7 本時の学習指導 (本時3/7時)

(1) 目標

- 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

(2) 評価規準

- 積極的に場面と場面、場面と描写などを結び付け、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 前時の学習を振り返り本時の課題を確認する。			2

<p>他の場面や描写を結び付けて、表現の仕方を検討しよう。</p>			
<p>2 同じ場面を選んだ4人でグループを作り、表現の工夫やその理由、結び付けた描写などを交流する。</p>	<p>○場面と場面、場面と描写の結び付け方 ○本文の描写を根拠にした読み方</p>	<p>○関連する別の場面の描写を探させたり、なぜその表現とするのかなどの理由をワークシートに書かせたりする。 ○加筆する際は自分の考えと区別できるように色を変えさせる。</p>	<p>20</p>
<p>3 同じ場面を選んだ異なるグループや別の場面を選んだグループと交流する。</p>	<p>〈関連させたい描写の例〉 場面Aの場合 ・幾度となく、僕は…その挿絵を眺めた ・あのなんともいえない、むさぼるような、うっとりした感じ ・大きな満足感のほか何も感じていなかった。 場面Bの場合 ・クジャクヤママユをさなぎからかえした。 ・繕うために努力した跡が認められた。 ・模範少年 ・「君がちょうをどんなに取りあつかっているか、ということを見るのができた」 場面Cの場合 ・母が根掘り葉掘りきこうとしないで…うれしく思った。 ・自分の宝物 ・幼い日の無数の瞬間を思い浮かべるのだ。 ・一度起きたことはもう償いのできないものだということを知った。</p>	<p>評価規準 【主体的に学習に取り組む態度①】 <u>ワークシート・観察</u> ・ここでは、表現する場面が、他の場面や描写とどのように結び付くのかを語り合ったり、気付いた内容をワークシートに加筆したりしようとしているかを確認する。 〈「努力を要する」状況(C)への手立て〉 ・対話を一度しようとしただけで、他の生徒の考えを参考にしようとする姿が見られない生徒については、Cと判断し、単元の学習課題や学習の見通しについて再度確認するように指導する。</p>	<p>10 10</p>
<p>4 再度同じグループで集まり、考えたことや収集した情報を共有し、表現の仕方を検討する。</p>		<p>例えば場面と描写を結び付けようと同じグループの生徒と語り合おうとする姿から主として粘り強さを確認した。また実際に表現をするために、他の生徒と語り合う中で気付いたことをワークシートに加筆している姿から主として自らの学習の調整を確認した。</p>	<p>4</p>
<p>5 本時のまとめをする。</p>			
<p>6 学習の振り返りをする。</p>	<p>〈期待される生徒の振り返り〉場面と描写を結び付けたことで、エーミールの悔しさを読み取ることができた。「そうか」には深い失望の念が感じられた。次の時間では舌を鳴らすことと「そうか」をどう表現するかを考えていきたい。</p>	<p>○何ができるようになり、まだできるようになっていないのかを振り返らせ、次時への見通しをもたせる。</p>	<p>4</p>

4 評価に基づく改善のポイント

4-1 主体的に学習に取り組む態度

右は、学習指導案の7(3)の学習活動3で加筆された生徒のワークシートである。ポップ体で書かれているのが、他の生徒と語り合う中で気が付いたことである。「低く「ちえっ。」と舌を鳴らし」という部分を表現する際に、「繕うために努力した跡」という描写と結び付けて考えることで、「繕うためにした努力が無駄になったことへの失望感から舌打ちをしたのだろう」と解釈を新たにしようとしている。

このワークシートから、他の生徒と語り合う中で複数の加筆をし、自分の解釈を新たにしようとしていることが読み取れるため、「主体的に学習に取り組む態度」を「おおむね満足できる」状況(B)と捉え評価した。

4-2 ペーパーテスト

ペーパーテストでは、〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウの資質・能力が、一人一人に定着しているかどうかを確認するために、「大造じいさんとガン」の全文を掲載し、次の問題に取り組ませた。

「大造じいさんは、ぐっとじゅうをかたに当て、残雪をねらいました。が、なんと思ったか、再びじゅうを下ろしてしまいました。」の部分をもどどのように演じるか、あなたの考えを書きなさい。また、そのように表現しようと考えた理由を複数の描写を根拠にしなが書きなさい。

一人一人の学習状況を評価し、未定着な状況にある生徒には支援を行った。ペーパーテストは生徒の学習改善に生かせるタイミングを見極めることが肝要である。

すると、エーミールは、激したり、僕をどなりつけた
「僕」に聞かせるように嫌みな感じで舌打ちをする。
「僕」に聞かせるように嫌みな感じで舌打ちをする。
「僕」に聞かせるように嫌みな感じで舌打ちをする。
「僕」に聞かせるように嫌みな感じで舌打ちをする。

▽クジャクヤママユをさなぎからかえした「繕うために努力した跡」
▼僕への恨みが伝わるように舌打ち。繕うためにした努力が無駄にならないうる失望感が舌打ちをしたのだ。

＜事例2＞「読むこと」（説明的文章）

「観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること」をねらった事例

第2学年「モアイは語る」指導要領との関わり：〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ

〔全国学力・学習状況調査結果等の課題「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつこと」と関連〕

1 学習指導案の作成に当たっての工夫、配慮事項

「モアイは語る」（以下、本教材とする）と、「イースター島にはなぜ森林がないのか」（以下、補助教材とする）は、内容に共通点が多いが、論理展開等は異なっている。そこで、両教材を比較して読むことで「文章の構成や論理の展開、表現の効果について考える」力を育成することを目指した。単元の終わりでは、グループでの活動を取り入れ、二つの文章に説得力がある理由について根拠を基にして説明する言語活動を設定した。両教材は文章の主張に若干の違いがあり、それぞれの筆者の主張と根拠となる例示について共通点と相違点を比較することで、例示の効果について考えさせることができる。さらに、それについてグループで交流することで、自分の考えをより深めたり、広げたりできるようにした。この単元の学習により、複数の文章を読み比べることで、文章を多面的・批判的に読むことができるように配慮した。

2 評価に当たっての工夫、配慮事項

本時においては、前時に行った両教材を読み比べて共通点や相違点を確認する学習を基に、文章に説得力をもたせる工夫に着目させ、説得力があると考えられる根拠を示して自分の考えを書かせることで評価することとした。

3 学習指導・評価の実際

1 単元名・教材名 筆者の論理の展開に注目して、自分の考えをまとめよう
「モアイは語る」安田喜徳 【第2学年】10月実施

2 生徒の実態と本単元の意図（略）

3 単元の目標

- (1) 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。
〈知識及び技能〉(2)ア
- (2) 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。
〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)エ
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。
〈学びに向かう力、人間性等〉

4 本単元における言語活動

二つの文章を比較して読み、文章構成や論の展開などについて、考えたことを説明する。
(関連：言語活動例C(2)ア)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 (2)ア	①「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。 (C(1)エ)	①粘り強く文章の構成や論理の展開、表現の効果について考え、学習課題に沿って根拠を基に説明しようとしている。

6 指導と評価の計画（全5時間扱い）（略）

7 本時の学習指導（本時5／5時）

- (1) 目標
 - 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。
〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)エ
- (2) 評価規準
 - 「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。
【思考・判断・表現】

(3) 展開			
学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 前時までの学習を振り返り、本時の課題を確認する。		○前時の全文シートと観点別にグループ化した共通点・相違点の付箋を確認させる。	3
主張に説得力をもたせるための工夫を見つけよう。			
2 観点に沿って二つの文章を比べ、どんな工夫があるか考える。	○表現の効果等の観点 ・文章の構成 ・主張と例示 ・表現の工夫 ○効果的な根拠の示し方	○前時に書き表したワークシートの工夫の中から効果について考えさせる。 P18 指導計画作成の留意事項(1)	15
3 4人の学習班で、それぞれの考えを交流する。	<p>説得力があると思う理由の例</p> <p>〈文章構成〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本教材は序論の四つの問題提起から、本論が順序立てて説明されていて、内容が捉えやすい。 ・補助教材は一つの問題提起に対して理由が三つも書かれている。 <p>〈主張と例示〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本教材は筆者自身が調査した事実が根拠になっている。 ・補助教材はラットの例を示すことで、人間が森林を破壊に与えた影響の大きさを感ぜさせる。 	○説得力のある根拠が集められていない生徒に支援する。 ○例示や工夫のある表現をいくつか示して効果を考えさせる。 ○交流する目的や観点を示した上で交流させる。 ○各グループを観察して交流の内容や生徒の進捗状況を確認する。	12
教師が意図的に編成した学習班が望ましい。			
4 交流を基にして、自分の考えを再検討し、書き直す。	これらの工夫によって、言葉に対する見方、考え方を促すように指導する。	<p>評価規準</p> <p>【思考・判断・表現①】</p> <p>ワークシート・観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、説得力をもたせる工夫について観点と本文を結び付けて述べているかを確認する。 <p><努力を要する状況(C)への手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の参加に消極的だったり、工夫を挙げられなかったりする生徒には、参考になるワークシートの付箋を示して支援する。 	14
5 本時のまとめをする。	文章構成や例示の仕方など、観点に沿って二つの文章を比べながら読むと、文章の構成や主張を裏付ける根拠の仕方を工夫することで説得力がある文章となることがわかった。		3
6 学習の振り返りをする。	〈期待される生徒の振り返り〉 読み比べることによって、一つの文章を読むだけでは気付かなかった書き方の工夫に気付くことができた。今後、自分の考えを書くときの参考にして、説得力のある文章を書けるようになりたい。	○文章構成や明確な根拠など、自分の主張に説得力をもたせる工夫について理解できたかを振り返らせる。	3

4 評価に基づく改善のポイント

教師による評価に基づいた適切な支援を行うためにも、学習計画表などを示して、目標と評価規準を生徒に意識させて学習させることが大切である。また、生徒間の相互評価や自己評価を適宜取り入れることが生徒の意欲向上に効果的である。

＜事例3＞「古典」

「歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむこと」及び「古典の一節を引用するなどして使うこと」をねらった事例

第3学年「おくのほそ道」指導要領との関わり：〔知識及び技能〕(3)ア・イ

1 本時の学習指導案の作成に当たっての工夫、配慮事項

本時は、「おくのほそ道」の芭蕉の俳句の中から心に響いた一句を友達に紹介することで、古典のよさを理解し、より深く作品の世界に親しむことができるように工夫した。また、より明確な目的意識をもって活動に取り組めるように、その表現形式を生徒に選択させた。

本単元の学習は、作品の世界をより深く、広く理解することを可能にし、舞台となった時代や作品の世界を、より実感的、具体的に捉えることにつながる。中学校では小学校での「竹取物語」「枕草子」「平家物語」等の古典教材における音読指導等の学習の上に、さらなる古典に親しむ学習を工夫したい。

2 評価に当たっての工夫、配慮事項

本時の評価に当たっては、俳句を選んだ理由や自分が心に響いた内容を書かせることで、作品の内容の把握や解釈を通じた考えの広がりや深まりを見取れるように工夫した。また、これらを小グループで相互交流する学習活動を設定して、作品の解釈や紹介の仕方等についての新たな見方・考え方を獲得し、次時の学習に生かすことができるように配慮した。

3 学習指導・評価の実際

1 単元名・教材名 古典を味わう 一心に響く俳句を紹介する—
「おくのほそ道」松尾芭蕉 【第3学年】 11月実施

2 生徒の実態と本単元の意図 (略)

3 単元の目標

- (1) 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。
〈知識及び技能〉(3)ア
- (2) 古典の一節を引用して使うことができる。
〈知識及び技能〉(3)イ
- (3) 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。
〈思考力・判断力・表現力等〉C(1)エ
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。
〈学びに向かう力、人間性等〉

4 本単元における言語活動

古典の一節を引用しながらその魅力を紹介する。(関連：言語活動例C(2)ア)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア ②古典の一節を引用して使っている。(3)イ	①「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)	①進んで古典の一節を引用し、今までの学習を生かして作品の魅力を紹介しようとしている。

6 指導と評価の計画(全5時間扱い) (略)

7 本時の学習指導(本時4/5時)

(1) 目標

- 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。
〈知識及び技能〉(3)ア
- 古典の一節を引用して使うことができる。
〈知識及び技能〉(3)イ

(2) 評価規準

- 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。
【知識・技能】
- 言葉や古典の一節を引用して使っている。
【知識・技能】

(3) 展開			
学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時
1 本時の課題を確認する。		○前時における芭蕉の旅に対する考えや思いを簡潔に整理し、本時の課題につなげる。	3
心に響いた芭蕉の一句を選び、その魅力を紹介しよう。			
2 「おくのほそ道」の俳句から一句選び、選んだ理由や解釈を俳句の語句を引用しながら書く。	○俳句を選ぶ観点 ・心に響く言葉 ・俳句の印象 ・場所への関心 等 ○作品解釈の方法 ○理由の書き方	○俳句を詠んだ場所に対する芭蕉の思いや、情景を語句から想像させる。 ○「曾良随行日記」など、俳句の理解を深めることに役立つ口語訳や古典について書いた解説等、学校図書館の資料を活用できるように準備しておく。	12
3 2で書いたものをペアで読み合い、相互評価をする。	○評価の仕方 ・適切な語句の引用 ・新たな見方・考え方	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">P18 指導資料作の留意事項(6)</div> <p>評価規準 【知識・技能②】 ワークシート・観察 ・ここでは、選択の理由を明確にし、俳句の語句を引用して自分なりの解釈を説明しているかを確認する。 〈「努力を要する」状況(C)への手立て〉 ・俳句を選べない生徒には、選ぶ方法を一緒に確認し、選択を見届ける。また、古典の中から旅に対する自分の考えと共通する部分を考えさせる。</p>	10
4 友達の評価を参考に、紹介文の構想を練る。	○交流を生かした紹介文の書き方 ○紹介の仕方 ・リーフレット ・ガイドブック等	<p>評価規準 【知識・技能①】 ワークシート・観察 ・ここでは、資料を活用して俳句の解釈を深めたり、相互交流を生かして新たな見方・考え方を獲得したりして、紹介文の内容と形式を決めているかを確認する。</p>	18
紹介の仕方を、各自で選択させる工夫をしている。生徒の実態に応じて、統一した形式で紹介をする方法もある。			
6 本時のまとめをする。		(生徒の作品例)	
芭蕉の一句について資料を使って調べたり、友達と交流したりすると、今までは気付かなかった新たな発見や古典の魅力を実感することができる。			
7 学習の振り返りをする。		○資料を使って調べたり、友達と相互評価したりすることで、今までとは違う視点から、選んだ俳句のよさを実感し、「おくのほそ道」の世界に親しむことができたか振り返る。	
<p>〈期待される生徒の振り返り〉 「田一枚植えて立ち去る柳かな」を選んだ。資料を読むと、地の文に「清水ながるるの柳は」とあることから、芭蕉の五百年前を生きた西行の和歌を踏まえて考えられていることを知って驚いた。この句の魅力が伝わる紹介文を書きたい。</p>			

4 評価に基づく改善のポイント

本時は「知識・技能」の評価を、解説した文章などの資料を活用して俳句の解釈を深めたり、相互交流を生かして新たな見方・考え方を獲得したりしているかどうかを、紹介する文章を書く準備段階のメモの内容により行った。「思考・判断・表現」については、紹介する文章に表れてくる「芭蕉の求めたもの」と、現在を生きる自分が旅に求めるものを比べる視点を次時に持たせて振り返る活動を設定して評価する。

＜事例4＞「書写」

「字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して書くこと」をねらった事例

第1学年「表紙の題字を書こう」（毛筆） 指導要領との関わり：〔知識及び技能〕(3)エ(ア)(イ)

1 本時の学習指導案の作成に当たっての工夫、配慮事項

本時では、既習事項と実際の社会生活を結び付ける言語活動として、国語のノートやプリントなど学習記録をまとめたものの表紙を飾る文字を書くことを設定した。中学1年では、文字の書き方や整え方を理解して楷書で書き、行書の基礎的な書き方も学習する。実際の社会生活では、さまざまな形式や状況に応じて文字を書くことが求められる。本時では、そのような実際の社会生活の場面を想定して、文字を書くという体験にしたいと工夫した。

さらに、文字は単に情報を伝えるものではなく、文字そのものによって伝わる内容があることや文字が空間を豊かにすることに気付かせ、積極的に文字を書く態度を養いたい。このことは中学3年で学習する我が国の言語文化に関わることにつながることであり、それを見越して示唆したい内容である。

既習事項については教科書を活用して、生徒自身が必要な部分を見返せるように全体指導や個別の指導を工夫した。

2 評価に当たっての工夫、配慮事項

試書から検討や練習を重ね、まとめ書きに至るまでの書いたものを比較することで、どのような点に着目してまとめ書きの文字に至ったかを把握できるように工夫した。振り返りの中で、考えたことを文や文章にするだけでなく、検討の際には生徒は自らの考えを説明することも取り入れ、自分の考えを明確にするようにした。

3 学習指導・評価の実際

1 単元名・教材名 これまでの学習を生かして仕上げよう

表紙の題字を書こう（毛筆）

【第1学年】3月実施

2 生徒の実態と本単元の意図（略）

3 単元の目標

(1) 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して書くことができる。

〔知識及び技能〕(3)エ(ア)

(2) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

〔学びに向かう力、人間性等〕

指導事項の一部「楷書で」を省いて作成した

4 本単元における言語活動

題字としてふさわしい言葉を選ぶなど、感じたことや考えたことを書く。

5 単元の評価規準

知識・技能	主体的に学習に取り組む態度
①字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して書いている。〔(3)エ(ア)〕	①進んで字形、文字の大きさ、配列などについて考えながら、今までの学習を生かして選んだ文字を書こうとしている。

6 指導と評価の計画（全1時間扱い）（略）

7 本時の学習指導（本時1／1時）

(1) 目標

○ 文字を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して書くことができる。

〔知識及び技能〕(3)エ(ア)

○ 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

〔学びに向かう力、人間性等〕

(2) 評価規準

○ 文字を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して書いている。

【知識・技能】

○ 進んで字形、文字の大きさ、配列などについて考えながら、今までの学習を生かして選んだ文字を書こうとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 展開			
学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 本時の課題を確認する。	P18 指導計画作成の留意事項(6)	○授業開始前に机上に用具を準備させる。 ○1年間の学習のまとめの表紙を飾る題字として書くことを確認する。	3
表紙の題字としてふさわしくなるよう、字形、文字の大きさと配列などを工夫して書こう。		○宿題で、決めておいた言葉の行書体を教科書巻末の資料など使って調べておく。	
2 題字のイメージをもつ。	○文字の効果的な使い方 ・字形 ・文字の大きさと配列	○学習者用PC等で、縦書き・横書き、文字の大きさ、配置、余白、行の中心、字形等の違いによる印象の変化を示し、これらの観点に沿って相応しい字を考えさせる。 ○教科書の参考作品で、手書きの文字が主役である表紙についてイメージをもたせる。	5
3 題字を試書する。	○文字の整え方 ・字形 ・文字の大きさと配列	考えの形成を視覚的に支援し、活動に取り掛かりやすくするとともに、活動時間が長くなりすぎないように工夫した。	3
4 3で書いたものについて検討し、練習する。 (1)自分の考えに近付くように観点に沿って書き直す。 (2)他の生徒と助言し合う。	○表現 (話すこと) P18 指導計画作成の留意事項(2) どのような表紙にしたいかというゴールを意識し、それに向かって粘り強く取り組んだり自らの学習を調整したりする姿を見取っていく。	○必要に応じて、鉛筆で中心線を引かせるなどする。 評価規準 【主体的に学習に取り組む態度①】 練習用紙・取組の様子の観察 ・ここでは、文字の整え方の観点に沿って検討し、自分の考えた字に近付こうとしているかを確認する。 <「努力を要する」状況(C)への手立て> ・どのような結果をねらいたいのかを明確にさせ、何を変えたらよいかを助言する。	20
5 まとめ書きをする。	○文字の整え方 ・字形 ・文字の大きさと配列	評価規準 【知識・技能①】 まとめ書きの用紙、取組の様子の観察 ・ここでは、文字の整え方の観点に沿って作品を仕上げていくかを確認する。 <「努力を要する」状況(C)への手立て> ・検討した内容を整理し、書きたいのはどのような文字なのかを具体的に想起してから書くよう助言する。	7
6 本時のまとめをする。	文字を整えて書くには、字形の整え方、文字の大きさと配列などの要素を考えて書くとよい。	○学習過程で書いた全てのものを比べて、どのような考えを文字で表現しようとしたか、そのためにどのような観点で文字を修正や変更をしていったかを自分の言葉で振り返らせる。また、今後の社会生活に生かせることを考えさせる。	2
7 学習の振り返りをする。	<期待される生徒の振り返り> すっきりと引き締まった題字にしたいと行の中心と点画の角度を一定に保つことに気を付けて文字の大きさをいろいろ試した。字間によっても印象が変わることも気付いた。文字の大きさや用紙の中の位置での違いについて考えたことを、掲示物を書く時に使ってみよう。		5
8 片付けをする。			5

4 評価に基づく改善のポイント

学習改善につなげるために社会生活と書写学習に連続性をもたせたい。また、授業改善につなげるには、生徒の思考や学習過程が明確になる授業記録と自己評価の方法の工夫が必要である。